

新設看護大学における1期生のディプロマ・ポリシーの認識(1)
—1年次調査より—

村口孝子・井田史子・岩澤磨紀
佐々木晶子・土居裕美子・細田武伸・宮島多映子

Takako MURAGUCHI, Fumiko IDA, Maki IWASAWA,

Shoko SASAKI, Yumiko DOI, Takenobu HOSODA, Taeko MIYAJIMA :

The First Class of Students' Understanding of the Diploma Policy in a Newly Established College of Nursing (1)

—Research in the Freshman Year—

鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 第73号 抜刷

2016年7月

新設看護大学における1期生のディプロマ・ポリシーの認識(1) —1年次調査より—

村口孝子¹・井田史子¹・岩澤磨紀¹
佐々木晶子¹・土居裕美子¹・細田武伸¹・宮島多映子²

Takako MURAGUCHI, Fumiko IDA, Maki IWASAWA

Shoko SASAKI, Yumiko DOI, Takenobu HOSODA, Taeko MIYAJIMA :

The First Class of Students' Understanding of the

Diploma Policy in a Newly Established College of Nursing (1)

—Research in the Freshman Year—

本研究は、A大学のディプロマ・ポリシーである「5つの看護力」の認識について、1期生が4年間のカリキュラムを通してどのように獲得していくかを明らかにする。2015年度の調査結果では、既修科目での学び、演習、実習における体験に基づく表現が盛り込まれている内容と、一般的、抽象的な表現に留まる内容に分かれる傾向が示された。今後の科目展開を通して「5つの看護力」の認識が深まることが示唆された。

キーワード：ディプロマ・ポリシー 新設大学 1期生 認識 変化

はじめに

高齢化社会の到来や医療の高度化、社会や保健医療を取り巻く環境の変化に伴い、あらゆる看護ニーズに対応できる、より質の高い看護専門職の育成が望まれている。「看護教育の内容と方法に関する検討会報告書」¹⁾によると、看護師に求められる実践能力は5つに分けられている。看護師が人間を対象としてケアを実施するための①ヒューマンケアの基本的な能力、「対象の理解」、「実施する看護についての説明責任」、「倫理的な看護実践」、「援助的関係の形成」②根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力③健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力④ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力、「看護専門職の役割」、「看護チーム

における委譲と責務」、「安全なケア環境の確保」、「保健・医療・福祉チームにおける多職種との協働」、「保健・医療・福祉システムにおける看護の役割」⑤専門職者として研鑽し続ける基本能力である。

平成4年「看護師等の人材確保の促進に関する法律」²⁾施行以降、看護系大学数は、平成3年度11大学から平成27年度250大学と急増した³⁾。一方、学士課程における看護学教育の課題として、コアとなる看護実践能力と卒業時到達目標の策定や、新たな看護学教育とその質の保証が求められている⁴⁾。

A大学は、「地域に根づく看護者を育成すること」を建学の精神にかかげ、平成27年4月に開学した単科の新設看護大学である。地域との密接な関係を背景として看護学教育を展開している。看護専門職に携わる者として、卒業時に備えるべき力として、ディプロマ・ポリシーである「5つの看護力」を定めており、学生に対しては学生便覧等で示している。すなわち、広い視野と人を思いやる豊かな人間性を

1 鳥取看護大学看護学部看護学科

2 兵庫大学健康科学部看護学科^{注1)}

育み、人生の問題や課題に誠実に向き合う力である「向き合う力」、高い倫理性と堅固な使命感をもって生き抜き、人に寄り添う力である「寄り添う力」、専門的な基礎知識と論理的思考にもとづいて看護実践する力である「論理的に看護実践する力」、チームワークを重んじ、創造的に多職種と連携・協働する力である「連携・協働する力」、病院から地域・在宅へと療養の場が移るなかで、地域で暮らす人びとの健康と生活を支え、地域とともに歩む力である「地域とともに歩む力」の5つである。これらの力を、当該大学の教育を通して培うこととしている。しかし、現時点ではディプロマ・ポリシーへの到達度に関する具体的な評価指標については未整備である。そこで、現時点での学生の「5つの看護力」の認識を知り、今後の教育評価内容を検討するための一助として本研究に取り組んだ。

1. 研究の目的

本研究の目的は、A大学のディプロマ・ポリシーである「5つの看護力」について、1期生である1年生が、1年次前期終了時点においてどのように認識し、受け止めているか、またその認識や受け止め方が4年間のカリキュラムを通してどのように変化していくかを明らかにすることである。それらの結果を、A大学における「教育目標の評価」に関する研究の一階梯と位置付けることである。

2. 用語の定義

本研究では、「ディプロマ・ポリシー」とは、大学がその教育理念を踏まえ、どのような力を身に付ければ学位を授与するのかを定める基本的な方針⁵⁾であり、学生の学修成果の目標ともなるものと定義した。

3. 研究方法

(1) 研究デザイン：縦断的記述分析研究

(2) 対象：A大学看護学部看護学科1期生79人

(3) データ収集期間：

第1回調査：平成27年10月初旬

第2回以降は、平成28年度から30年度まで、後期終了時に、計3回の調査を実施する予定である。

(4) 質問紙作成およびデータ収集方法

ディプロマ・ポリシーの「5つの看護力」について、項目ごとに今どのように考えているのか自由記述による質問紙を作成した。質問紙を対象者に配布し、回収した。

(5) 分析方法

データは、外部委託にて入力し、テキストデータ化されたものを分析の対象とした。以下の手順にて、計量テキスト分析および内容分析を行い、量的、質的の二つの側面から分析することを試みた。

1) 計量テキスト分析

計量テキスト分析には、樋口⁶⁾の開発したフリーソフトウェアKH Coderを使用した。KH Coderは、テキストデータから自動的に語を抽出して、集計、解析が可能なソフトである。データは品詞ごとに集計されるため、複数の品詞から構成される語および未定義の語については、予め、強制抽出する語（看護師、チーム医療、医療従事者、論理的、協働、まちな保健室、鳥取看護大学など）の指定を行った。自由記述から得られたテキストデータより、総文字数、一人あたりの平均文長（文字数）、および助詞・助動詞を除いた総抽出語数と抽出語の出現回数を確認した。

2) 内容分析

①文章の趣旨に留意しつつ、表記を一部整えてコー

ド化した。

- ②意見の主題をグループ化し、カテゴリーに分けた。
(大分類)
- ③カテゴリーの細目として、キーワード(中分類)を抽出した。
- ④カテゴリー、サブカテゴリーを用いてカテゴリー間の関係性を見た。
- ⑤データの信頼性・妥当性を確保するため、共同研究者間で協議を行った。

(6) 倫理的配慮

本研究は、鳥取看護大学・鳥取短期大学研究倫理審査委員会の承認を得て行った。(承認番号 2015-7) 研究対象者には、文書および口頭で、研究の目的、方法、回答の任意性、不利益はないこと、プライバシーの保護、匿名性の保持(質問紙の記載事項は、外部委託にてデータ入力し、テキストデータ化されたものを研究者が分析するため、個人が特定されないこと)、結果の公表については個人が特定されないことなどを説明した。回答は無記名とし、質問紙記入後、鍵のかかる回収ボックスを設置し回収した。質問紙の投函をもって本調査の同意を得たものとした。

4. 結果

(1) 研究対象者の概要

対象とした看護学生の前期終了時点における基礎分野の履修科目は、「人間学」、「日本語表現」、「教育学」などであった。専門基礎分野の履修科目は、「看護学概論」、「基盤看護技術 A」、「生活健康論」および「生活健康論実習」となっている。本学の特徴として、地域に根づく看護職を育成するために、1年次より、当該地域の公民館をフィールドとした「生活健康論実習」が設定されており、対象者はすでに、この実習を経験していた。

(2) 結果

回収率は79名中21名(回収率26.6%)であった。

5つの質問項目のうち、未回答を含むデータがあったが、本調査では、未回答であることにも意味があると捉え、回答されたデータはすべてテキストデータとして扱った。

(3) 計量テキスト分析について

5つのディプロマ・ポリシーについて、それぞれの総文字数、総抽出語数、一人あたりの平均文長(文字数)、未回答者(率)を示す(表1)。総文字数が多い順は、「向き合う力」「連携・協働する力」「地域とともに歩む力」「寄り添う力」「論理的に看護実践する力」であった。総抽出語数が多い順も、「向き合う力」305語、「連携・協働する力」279語、「地域とともに歩む力」263語、「寄り添う力」243語、「論理的に看護実践する力」185語であった。また、総文字数、平均文長、回答者率ともに最も少なかった項目は、「論理的に看護実践する力」であった。

表1 計量テキスト分析による基本情報

	総文字数	総抽出語数	平均文長	未回答者 (n=21)
向き合う力	1,313	305	62.5	0
寄り添う力	985	243	54.7	3
論理的に看護 実践する力	731	185	47.7	6
連携・協働 する力	1,167	279	68.6	4
地域とともに 歩む力	1,056	263	58.7	3

次に、5つのディプロマ・ポリシーについて、抽出された単語および出現回数を示す(表2)。これらの抽出語のうち、ディプロマ・ポリシーに含まれる単語を除いた出現回数が多い名詞は、『向き合う力』について「自分」「人」「患者」「看護」「必要」、『寄り添う力』について「患者」「心」「相手」「人」、『論理的に看護実践する力』について「演習」「患者」「思考」「身」、『連携・協働する力』について「患者」「チーム医療」「必要」「医療従事者」「看護師」「身」、『地域とともに歩む力』について「協力」「実習」「人」「医療」などが挙げられた。また『地域とともに歩

む力』の注目すべき語として、「まちの保健室」「公民館」が挙げられた。

(4) 内容分析について

テキストデータを、言葉の意味内容に従ってコード化し、5つのディプロマ・ポリシーについて得られたコード数、サブカテゴリー数、カテゴリー数を示す(表3)。以下、【 】はカテゴリー、《 》はサブカテゴリー、〈 〉はコードを示す。

表3 5つのディプロマ・ポリシーのカテゴリー数

	カテゴリー	サブカテゴリー	コード
向き合う力	4	10	73
寄り添う力	3	8	45
論理的に看護実践する力	4	10	34
連携・協働する力	3	11	59
地域とともに歩む力	4	19	56

『向き合う力』として【向き合う対象】【対象を理解する】【向き合うために必要な力】【向き合うことでの成長】4カテゴリー、『寄り添う力』として【寄り添うとは】【寄り添うために必要な力】【これから学ぶ力】3カテゴリー、『論理的に看護実践する力』として【これから学ぶもの】【応用する力】【看護実践に必要な力】【看護実践の重要性】4カテゴリー、『連携・協働する力』として【自分たちが育む大切な力】【チーム医療に必要なこと】【今後の展望】3カテゴリー、『地域とともに歩む力』として【実習での学び】【地域との交流】【地域の結びつき】【地域医療】4カテゴリーが抽出された。以下は、それぞれのカテゴリーとサブカテゴリーの、特徴的な記述である。

1) 『向き合う力』について

【向き合う対象】は、《自分と向き合う》、《相手と向き合う》、《現実と向き合う》、《死と向き合う》という4サブカテゴリーから構成されていた。《自分と向き合う》とは、〈自分に向き合う〉、〈自分自身

についてしっかりと振り返る〉などのコードから導かれた。《相手と向き合う》は、〈患者と向き合う〉、〈対象者としっかりと向き合う〉、〈友達と向き合う〉などであった。《現実と向き合う》は、〈現実にも向き合う〉、〈悪いことから逃げない〉、などであった。《死と向き合う》は、〈死をどのように受け止めるか〉、〈死をどのように支えられるか〉などの記述であった。

【対象を理解する】は、《それぞれの立場で物事を考える》、《相互理解》の2サブカテゴリーから構成されていた。《それぞれの立場で物事を考える》は、〈人間としての立場から物事を考える〉、〈看護師としての立場から物事を考える〉、〈相手の立場になって考える〉などの言葉から導き出された。《相互理解》は、〈お互い理解し合う〉〈いろいろな考え方を持っている人がいることを理解する〉などであった。

【向き合うために必要な力】は、《向き合う力を育むために必要な条件》、《自分に向き合うことの大切さ》の2サブカテゴリーから構成されていた。《向き合う力を育むために必要な条件》は、〈たくさんコミュニケーションを取る〉、〈何事にも真剣に取り組む〉、〈相手を理解し、受け入れる力〉などから導きだされた。

【向き合うことでの成長】は、《大切な力》、《自分と向き合うことで得られるもの》の2サブカテゴリーから構成された。《大切な力》は、〈看護するにあたって大切〉、〈よりよい看護師になれる〉、〈向き合う力は大切だ〉などであった。《自分と向き合うことで得られるもの》は、〈自分自身ともしっかり向き合うことで、他者との向き合う力は養われる〉〈自分と向き合っていくことで考え方が広がる〉などであった。

2) 『寄り添う力』について

【寄り添うとは】は、《対象を理解する》《看護に必要な力》《相手の心に寄り添う》3サブカテゴリーから構成されていた。《対象を理解する》は、〈寄り添うためには「人を受容する」〉、〈患者の気持ちを理解する〉、〈不安などを取り除くことができる〉、〈相手と共感する〉、〈自然とそばにいる〉など相手の気

持ちを理解することであった。《看護に必要な力》は、〈支える事が出来る力〉、〈看護することに必要な力〉などであった。

【寄り添うために必要な力】は、《自らが人間性を育む》、《思いやり》、《コミュニケーション力》3サブカテゴリーから構成されていた。

【これから学ぶ力】は、《経験で身につくもの》、《寄り添うことで得られるもの》2サブカテゴリーから構成されていた。

3) 『論理的に看護実践する力』について

【これから学ぶもの】は、《演習が必要》、《勉強不足》、《今後身につけていくもの》、《知識が必要》の4サブカテゴリーから形成され、〈今はよくわからない〉、〈これから身につけていく〉、〈授業中の演習時間が少ない〉、〈看護の基本的な考え考えがもとなる〉などの16コードから導き出された。

【応用する力】は、《応用する力》、《学びを活かす》の2サブカテゴリーから形成され、〈看護の現場において様々な臨機応変の対応が重要〉、〈的確に看護に応用するために必要な力〉、〈学んだことを活かして看護する〉などの6コードから導き出された。

【看護実践に必要な力】は、《患者とのコミュニケーション》、《倫理に基づくもの》、《医療従事者として必要》、の3サブカテゴリーから形成され、〈医療従事者として当たり前〉、〈実習病院で働くときに役立つと思う〉、〈しっかりとした道徳的な考え方を身に付ける〉、〈患者とのコミュニケーションは重要〉など9コードから導き出された。

【看護実践の重要性】は、《看護実践の重要性》のサブカテゴリー、〈看護の基本的な実践がもとなる〉、〈論理的思考にもとづいて看護実践を行う〉など3コードから導き出された。

4) 『連携・協働する力』について

【自分たちが育む大切な力】は、《身に付けたい大切な力》、《チームワーク》、《コミュニケーション能力》、《協力》、《団結力》の5サブカテゴリーから構成されていた。《身に付けたい大切な力》は、〈日常生活でも必要な力〉、〈今後大切なことである〉、〈入

学してから一番身についた力〉などの11コードから導かれた。《チームワーク》は、〈看護のみならず、どの仕事、現場でも当てはまる〉、〈みんながひとつになって何かをする〉などの8コードから導かれた。《コミュニケーション能力》は、〈自然に声をかけたりできるようになった〉などの5コードから導き出された。特殊なものとして《団結力》は、〈1期生は団結力がある〉1コードから導き出された。

【チーム医療に必要なこと】は《他職種との連携》、《チーム医療》、《看護職どうしの連携》、《患者・家族との連携》の4サブカテゴリーから構成されていた。《他職種との連携》^{注2)}は〈様々な職種と連携・協働できること〉、〈いろいろな職業の人と関わり協力していく力〉、〈様々な医療従事者同士で情報を共有しあう〉などの9コードから導かれた。《チーム医療》は、〈チーム医療という言葉をよく耳にする〉、〈チーム医療が主流〉、〈チーム医療の一員〉7コードから導き出された。

【今後の展望】は、《地域医療の現状》、《より良い看護》の2サブカテゴリーから導き出された。《地域医療の現状》では、〈地域医療がどんどん増えている〉、〈病院から地域、もっと連携する力が必要〉など3コードから導き出された。

5) 『地域とともに歩む力』について

【実習での学び】は、《「まちの保健室」の存在》、《地域との関わり》、《公民館での実習》、《授業・実習で地域について学ぶ》、《地域に出ることのできる力》、《大学選択の理由》の6サブカテゴリーから構成されていた。

《「まちの保健室」の存在》では、〈「まちの保健室」〉、〈「まちの保健室」を通して地域の方との交流がふえる〉、〈「まちの保健室」を通して大学を身近な存在として感じる〉など5コードから導き出された。《公民館での実習》では、〈公民館実習を通して、看護大学を身近な存在として感じる〉、〈公民館実習での実習を通して、つながってきている〉、〈公民館での援助がとても大切〉の3コードから導き出された。

【地域との交流】は、《地域の協力が不可欠》、《地域とともに作りあげる》、《地域の人とコミュニケーション》、《地域貢献》、《地域との相互理解》の5サブカテゴリー、14コードから構成された。

【地域の結びつき】は、《地域全体で人を支える》、《住みよい地域づくり》、《ヘルスプロモーションの進展》、の3サブカテゴリー、3コードから構成された。

【地域医療】は、《在宅医療の充実》、《地域の人々の健康増進》、《より良い医療の提供》、《地域に沿った医療の提供》、《予測された事態を考えて行動》、5サブカテゴリー、17コードから構成された。

5. 考察

学生が看護師免許取得前に学ぶ教育として、①人間性のベースになる倫理性、人に寄り添う姿勢についての教育 ②状況を見極め、的確に判断する能力を育成する教育 ③コミュニケーション能力、対人関係能力の育成につながるような教育 ④健康の保持増進に関する教育⑤多職種間の連携、協働と社会資源の活用及び保健医療福祉に関する法律や制度に関する教育 ⑥主体的に学習する態度を養う教育が、専門家として自覚的に役割を果たしていくためのヒューマンケアの基本的な能力の基礎となるため早急に培う必要があると報告されている。¹⁾

A 大学は、これからの社会が求める看護師を育成する大学として、『育成する人材像』に「専門的な基礎知識と技術を持ち、豊かな人間性で患者に寄り添う人材」「地域医療・在宅医療を支える人材」「地域で働くことに喜びと誇りを持つ人材」この3点を教育理念に掲げている。この理念をもとに「5つの看護力」ディプロマ・ポリシーが構成されている。

さらに A 大学は、地域包括支援分野において、将来の地域、在宅、連携、協働の在り方を見据えて活躍する看護師の育成を目指している。実習では段階的に4年間で看護実践力が身につくように科目配置がされている。1学年の前期は基礎分野科目として、

「日本語表現」、「人間学」等、専門支持分野として「人体の構造と機能 A」、「臨床心理学」、専門基礎分野では、「看護学概論」、「基盤看護技術 A」、「生活健康論」、「生活健康論実習」等の科目を修了している。「看護学概論」では看護の定義・概念、看護の歴史の変遷、看護専門職の役割・活動、看護過程の概念、看護実践を支える法律、教育制度といった内容を学ぶことで、「看護とはなにか」を概ね理解し、ヒューマンケアを実現するための基本姿勢について学びを深めている。

今回の調査では、ディプロマ・ポリシーである5つの力のうち、『向き合う力』は、総文字数、総抽出語数が多く、「自分」「人」「看護」「看護師」「相手」「理解」との言葉が出現された。学生にとって【向き合う対象】は、自分、相手、現実、死であることが明らかになった。さらに、それぞれの立場で物事を考えることによって、相互理解することで【対象を理解する】と考えている。【向き合うために必要な力】は、自分に向き合い、自ら育むことが必要だと捉えている。また自分と向き合うことで向き合う力が身に付き、【向き合うことでの成長】ができると考えている。「向き合う力」とは、「患者」「人」「相手」「地域」といった他者の理解や相互理解だけではなく、自分と向き合うこと、つまり自己理解を意識していた。これは、「生活健康論実習」で自己の生活のしかたや生活習慣に焦点を当てて、自己の健康にとっての意味・意義を考え、他者の意識と自分の考えを対比させることによって、自分の生活観や健康観を深めたことが関与しているのではないかと考える。

『寄り添う力』については、「論理的に看護実践する力」の次に、総文字数、平均文長、抽出語数が少なかった。また、対象が「患者」「相手」「心」とあるように、力の向きは一方向となっている。広辞苑⁷⁾では、「寄り添うとは、ぴったりとそばにいること」と記載されているように、「寄り添う」の一般的な意味としては、対象の近くにいること、支えること、共感すること、同じ方向に進むことと捉えられるで

あろう。学生の回答にもこのような一般的な表現が見られた。マーガレット・ニューマン⁸⁾は、「看護とは、その瞬間に心を込めて寄り添うこと」、「寄り添いとは、相手を気遣って深く関心を注ぎ、理解しようとするのを伝え、響き合う意識」と述べている。A大学のディプロマ・ポリシーでは、高い倫理性と堅固な使命感をもって生き抜き、人に寄り添う力であるとしている。荒井⁹⁾によると、「寄り添うとは、全身を傾けて相手に聞き入り、相手の気持ちに寄り添い、相手のすべてを受け入れることである」と定義している。現時点で学生は、【寄り添うとは】対象を理解し、相手の心に寄り添うこと、看護にとって必要な力だと捉えている。【寄り添うために必要な力】は、コミュニケーション力、思いやり、自らが人間性を育むことである。寄り添う力は「病状の違う患者さんに対して看護師としてどのように寄り添っていくか、そのことを大学で学ぶことができたらいい」と記述しているように【これから学んでいく力】であり、今後経験することによって得られるものであると理解している。また、ケアに関する知識及びケア論を修得していないため言語化が難しかったのではないかと考える。

『論理的に看護実践する力』は、他の4つの力と比較して、総文字数、総抽出語数、平均文長、コード数ともに最も少なかった。そして、「まだ」「まだまだ」といった表現からも、今後身につくであろう、あるいは身につけたい力であると捉えていることが考えられる。内容分析でも、【これから学ぶもの】のカテゴリーが構成された。演習が必要、今後身につけていくもの、勉強不足と示されているように、今回の調査では、看護専門用語が少なかった。これは、「疾病論」、「看護病態学」などの専門支持分野、また「成人看護」、「母性看護」などの専門実践分野の講義を受けていないためだと考える。しかし、専門職として、【看護実践の重要性】【看護実践に必要な力】【応用力】と捉えられており、2年次以降に、「疾病論A」・「疾病論B」・臨地実習などの、専門基礎分野、専門実践分野の授業を受けることによっ

て変化していくと考える。

『連携・協働する力』については、「チーム医療」「医療従事者」といった語が挙げられた。近年、高齢化社会、在院日数の短縮化、医療の高度化などにより、社会や保健医療を取り巻く環境は大きく変化しており、看護職は、他職種との連携、役割分担が求められている。患者の状況に的確に対応した医療を提供するために、看護師はチーム医療のキーパーソンとしての役割が期待されている。本学のディプロマ・ポリシーでも、「チームワークを重んじ、創造的に多職種と連携・協働する力」と位置付けられている。学生は、【チーム医療に必要なこと】は、他職種の連携、看護職どうしの連携、患者家族との連携であり、身に付けたい大切な力として、チームワーク、コミュニケーション能力などを【自分達が育む大切な力】と考えていた。さらに【今後の展望】としてより良い看護を行うために必要な力と考えていた。

『地域とともに歩む力』については、公民館での実習や「まちの保健室」など、実習やボランティアでの具体的な体験をもとにした言葉が表出されていた。これは、A大学の個性や特色が、ディプロマ・ポリシーに具体的に反映されており、その機会を与えられた教員一人一人の指導による教育効果が高いことによるものと評価できる。

学生は、【実習での学び】とは、授業や実習で地域について学ぶことであり、さらに公民館での実習、「まちの保健室」などで地域と関わり、実際に地域に出ることでつく力と考えている。また【地域との交流】は、地域の協力が不可欠で、地域の人とのコミュニケーションを図り、地域との相互理解の中で、地域とともに作りあげるものと捉えている。そして、【地域の結びつき】が地域全体で人を支えることや住みよい地域づくり、ヘルスプロモーションの進展へと繋がると捉えている。【地域医療】は、地域の人々の健康増進を図り、地域に沿った医療を提供することで、より良い医療及び在宅医療が充実すると捉えている。

今回の調査では、「地域」という語句が最も多く出現していた。1年次では、「生活健康論実習」で実際に地域をフィールドとして、地域で生活する身近な人々の生活や健康に対する意識を理解し、社会・健康生活と向き合い、自己の健康観・生活観を深めるために公民館を使用して実習を行っている。このことが大きな要因ではないかと考える。

今回の調査において、学生がこれまでの成長過程や普段の生活の中で、実際に経験してきたことや、その中で培われた考え方、思考が反映している表現が多く見られた。5つのディプロマ・ポリシーのうち、既修科目での学びや、「地域」「公民館」「まちな保健室」など、演習、実習における実体験に基づく具体的な事例を通じた表現が盛り込まれている内容と、「向き合う」「寄り添う」など、一般的、抽象的な表現に留まる内容が多いものに分かれる傾向があった。

5つの力は、相対的に段階を経て修得されていくものではなく、それぞれの達成度は、学修段階、学修内容によって、異なることが考えられた。また、自らが体験したことをそのままの言葉として表現していた。実習などで経験したことをさらに言語化、抽象化、体系化していくプロセスの中で、知識を積み重ねることによって、既存の知識が活かされ、さらに学びが深化すると考える。

今回の研究では、1年次前期終了時点での、学生のディプロマ・ポリシーの受け止め方や認識を、質的および量的に分析した。この結果を継続的に調査、分析して比較することによって、今後の学生のディプロマ・ポリシーの受け止め方や認識の変化を、経年的に評価することが可能になると考える。

6. 研究の限界と課題

今回は、1大学の一部学生による調査結果であるということから、一般的な概念には至らないことが研究の限界である。また、回収率が低かったことの要因として、質問紙が記述式であったため、書くこ

とに抵抗のある学生からの回答は得られにくかったことが考えられる。このことから、次年度は研究目的及び研究の意義を、十分に説明し、研究協力の理解を得ていきたい。

7. 結語

- (1) 学生にとって『向き合う力』とは、「患者」「人」「相手」「地域」といった他者の理解や相互理解だけではなく、自分と向き合うこと、つまり自己理解を意識していた。
- (2) 『寄り添う力』は、総文字数、平均文長、抽出語数が2番目に少なかった。学生は、【これから学んでいく力】、今後経験することによって得られる力だと捉えていた。
- (3) 『論理的に看護実践する力』は、他の4つの力と比較して、総文字数、総抽出語数、平均文長、コード数ともに最も少なかった。
- (4) 『連携・協働する力』については「チーム医療」「医療従事者」といった語が挙げられた。
- (5) 『地域とともに歩む力』については、公民館での実習や「まちな保健室」など、実習やボランティアでの具体的な体験をもとにした言葉が表出されていた。

A大学における看護学生のディプロマ・ポリシーの認識として、既修科目での学び、演習、実習における体験に基づく表現が盛り込まれている内容と、一般的、抽象的な表現に留まる内容に分かれる傾向が示された。今後の科目展開を通して「5つの看護力」の認識が深まることが示唆された。授業で修得したことについては理解出来つつあることがわかった。

謝辞

本研究にご協力いただいたA大学看護学部看護学科1期生の皆様に感謝いたします。

注

- 1) 元鳥取看護大学看護学部看護学科

2) 《他職種との連携》は、学生が現時点で、看護師とは別の職種としてとらえているため、「ディプロマ・ポリシー」の多職種と連携・協働する力とは、区別して使用している。

引用・参考文献

- 1) 厚生労働省『看護教育の内容と方法に関する検討会報告書』, 2011, pp. 11-17.
- 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律, (改正平成二十六年六月二十五日法律第八十三号).
- 3) 厚生労働省『看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就学状況調査』, (2015年度, 定員設置別主体別都道府県別(大学), 政府統計の総合窓口).
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001139988>, (2016.3.25).
- 4) 文部科学省『大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告』, 2011, pp. 7-20.
- 5) 文部科学省『「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー), 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー) 及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン』, 2016, pp. 2-7.
- 6) 樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析』, ナカニシヤ出版, 2014, pp. 17-29.
- 7) 新村出『広辞苑』第6版. 岩波書店, 2009, p. 2914.
- 8) Newman, M.A., 遠藤恵美子訳『変容を生みだすナースの寄り添い—看護が創りだすちがいがい』, 医学書院, 2009.
- 9) 荒井優「看護の人間学(1)～看護師に求められる人間性～」, 『鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要』第72号, 2015, pp. 17-18.

表2 5つのディプロマ・ポリシーから抽出された語句および出現回数（出現回数2回以上）

向き合う力		寄り添う力		論理的に看護実践する力		連携・協働する力		地域とともに歩む力	
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
向き合う	28	寄り添う	15	看護	11	連携	12	地域	28
自分	16	力	10	実践	6	患者	9	思う	7
力	15	患者	9	力	5	力	9	協力	6
考える	9	思う	7	演習	4	協働	8	実習	6
思う	8	心	6	患者	4	チーム医療	7	人	6
人	8	相手	6	考える	4	思う	6	力	6
患者	6	考える	5	思考	4	必要	6	医療	5
看護	6	人	5	身	4	医療従事者	5	考える	5
必要	5	たくさん	3	論理的	4	看護師	5	知る	4
看護師	4	経験	3	感じる	3	身	5	まちの保健室	3
向き合える	4	重要	3	技術	3	医療	4	看護	3
相手	4	状況	3	行う	3	現場	4	関わり	3
地域	4	大切	3	思う	3	考える	4	公民館	3
立場	4	地域	3	重要	3	病院	4	支える	3
感じる	3	不安	3	コミュニケーション	2	チーム	3	大切	3
向く	3	聞く	3	学ぶ	2	重要	3	不足	3
考え方	3	ケア	2	考え	2	大切	3	歩む	3
持つ	3	家族	2	今	2	地域	3	良い	3
自身	3	学ぶ	2	少ない	2	同士	3	課題	2
重要	3	感じる	2	深い	2	様々	3	看護師	2
大切	3	看護	2	専門	2	グループ	2	健康	2
理解	3	看護師	2	知識	2	コミュニケーション	2	交流	2
悪い	2	関係	2	必要	2	医師	2	高齢	2
公民館	2	考え	2	分かる	2	一番	2	在宅	2
広がる	2	思いやる	2	理解	2	看護	2	進む	2
支える	2	自然	2	臨機応変	2	関係	2	生活	2
実習	2	自分	2			協力	2	全体	2
周り	2	実習	2			言う	2	増える	2
信頼	2	出来る	2			今	2	増進	2
成長	2	信頼	2			治療	2	大学	2
責任	2	親身	2			職業	2	地元	2
前	2	身	2			職種	2	鳥取看護大学	2
働く	2	人生	2			信頼	2	提供	2
同年代	2	生活	2			人	2	内容	2
良い	2	築く	2			他	2	理解	2
話す	2	理解	2						
		話	2						

表4 ディプロマ・ポリシーの5つの力について

総コード数 (267)

カテゴリー		サブカテゴリー
向き合う力	向き合う対象	自分と向き合う (10)
		相手と向き合う (10)
		現実と向き合う (3)
		死と向き合う (3)
向き合う力	対象を理解する	それぞれの立場で物事を考える (10)
		相互理解 (3)
		向き合う力を育むために必要な条件 (11)
		自分に向き合うことの大切さ (6)
向き合う力	向き合うことでの成長	大切な力 (12)
		自分と向き合うことで得られるもの (5)
		対象を理解する (9)
		看護に必要な力 (7)
寄り添う力	寄り添うとは	相手の心に寄り添う (3)
		自らが人間性を育む (6)
		思いやり (4)
		コミュニケーション力 (3)
寄り添う力	寄り添うために必要な力	経験で身につくもの (8)
		寄り添うことで得られるもの (5)
		演習が必要 (6)
		勉強不足 (4)
論理的に看護実践する力	これから学ぶもの	今後身につけていくもの (4)
		知識が必要 (2)
		応用する力 (5)
		学びを活かす (1)
論理的に看護実践する力	応用する力	患者とのコミュニケーション (3)
		倫理に基づくもの (3)
		医療従事者として必要 (3)
		看護実践の重要性 (3)
論理的に看護実践する力	看護実践に必要な力	身に付けたい大切な力 (11)
		チームワーク (8)
		コミュニケーション能力 (5)
		協力 (4)
論理的に看護実践する力	看護実践の重要性	団結力 (1)
		他職種との連携 (9)
		チーム医療 (7)
		看護職どうしの連携 (4)
連携・協働する力	自分たちが育む大切な力	患者・家族との連携 (3)
		地域医療の現状 (3)
		より良い看護 (4)
		「まちの保健室」の存在 (5)
連携・協働する力	チーム医療に必要なこと	公民館での実習 (3)
		地域との関わり (3)
		授業・実習で地域について学ぶ (2)
		地域に出ることづく力 (2)
地域とともに歩む力	今後の展望	大学選択の理由 (2)
		地域の協力が不可欠 (6)
		地域とともに作りあげる (4)
		地域の人とコミュニケーション (2)
地域とともに歩む力	実習での学び	地域貢献 (1)
		地域との相互理解 (1)
		地域全体で人を支える (1)
		住みよい地域づくり (1)
地域とともに歩む力	地域との交流	ヘルスプロモーションの進展 (1)
		在宅医療の充実 (7)
		地域の人々の健康増進 (5)
		より良い医療の提供 (3)
地域とともに歩む力	地域医療	地域に沿った医療の提供 (1)
		予測された事態を考えて行動 (1)